

1. 国際司法裁判所の 勧告的意見

1996. 7. 8

いかなる状況のもとにおいて、核兵器の使用及び威嚇は国際法に違反しないで許されるか。

1. 国連総会の勧告的意見の要請に答えるべきかどうか。13対1（反対：日本）

2. (A)（全員一致）

現在の国際慣習法及び条約において、核兵器の使用または威嚇を特定の承認するものはない。

(B)（11対3）

慣習的国際法及び条約において、核兵器の使用または威嚇を包括的、一般的に禁止するものもない。

反対：シャハブディーン（ガイアナ）、コロマ（シェエラレオネ）、ウィラマントリー（スリランカ）

(C)（全員一致）

国連憲章第2条4項に反し、国連憲章第51条の要件を満たさない核兵器の使用または威嚇は違法である。

(D)（全員一致）

核兵器の使用または威嚇は、戦争法（戦時国際法）の要件、とりわけ国際人道法の原則とルール、条約に基づく特定の義務及び明示的に核兵器を取り扱った取り決めと両立するようものでなければならない。

(E)（7対7）

以上にふれた要件からして、核兵器の使用または威嚇は、戦争法とりわけ国際人道法の原則とルールに一般的に反するであろう。

しかしながら、国際法の現状及び裁判所が把握できる諸要素に照らすと、国家の存続が危ぶまれるような極端な状況での自衛のための核兵器の使用または威嚇が合法あるいは違法かどうかについては結論を下すことはできない。

反対：（米、日、仏、英、ガイアナ、コロマ、スリランカ）

(F)（全員一致）

あらゆる点において、厳密かつ効果的な国際的コントロールのもとで、核軍縮をめざす交渉を完結させる努力をする義務がある。



リチャード・ウェストール『ダモクレスの剣』

2. ウィーラマントリー 国際反核法律家協会（IALANA）会長 国際司法裁判所次長（元）

—世界の環境担当大臣に向けた公開書簡—（2011. 3. 14）

インターネットで、「ウィーラマントリー」を入力すると、「日本反核法律家協会」のホームページにつながり、森川泰宏氏の「公開書簡」の解説が出ます。または、「反核法協」「過去の更新情報」で見ることができます。

「原子炉は世界中に拡散し、来たる1000世代にわたって汚染や先天性奇形の種子をばらまいています。

歴史の法廷において、私たちの義務の不履行と信託の乱用について弁明しなければなりません。つまり、私たちは、将来の世代に対するありうべき最も重大な犯罪に関与しており、幾重にも残忍、粗暴で野蛮な人間となる。」

「原子炉の存続と拡散は、人道法、国際法、環境法、および国際的な持続可能な発展に関する方のすべての原則に反するものです」

「新たな原子炉の建設停止、代替エネルギーシステムの探求、既存のシステムの段階的な廃止に向けて、直ちに行動する必要があると主張します。原子炉の利点についての一方的な情報の流出は是正されなければなりません。」

3. 国際反核法律家協会総会での特別講演

（2011. 6. 18 ポーランド・シュチェフ）

インターネットで、「ウィーラマントリー」、「ダモクレスの剣」を入力すると、その特別講演についての浦田賢治氏の解説が出ます。

「核兵器と核エネルギーはダモクレスの剣の2つの刃である。われらは、核兵器の研究と改良によってダモクレスの刃の鋭利な方を研磨してそれをいっそう危険なものにしている。この剣の鈍い刃もまた、原子炉の拡散と維持によって危険なレベルにまで研磨されつつある。剣をつるす脅威の糸は、少しずつ切り刻まれつつある。なぜなら、核保有国が増加し、インターネットで核兵器製造知識の入手が可能になり、原子炉廃棄物に由来する核兵器物質の入手が可能になり、さらにテロ組織の活動が爆弾取得を企図しているからだ。ダモクレスの剣は日々危険なものになりつつある。」

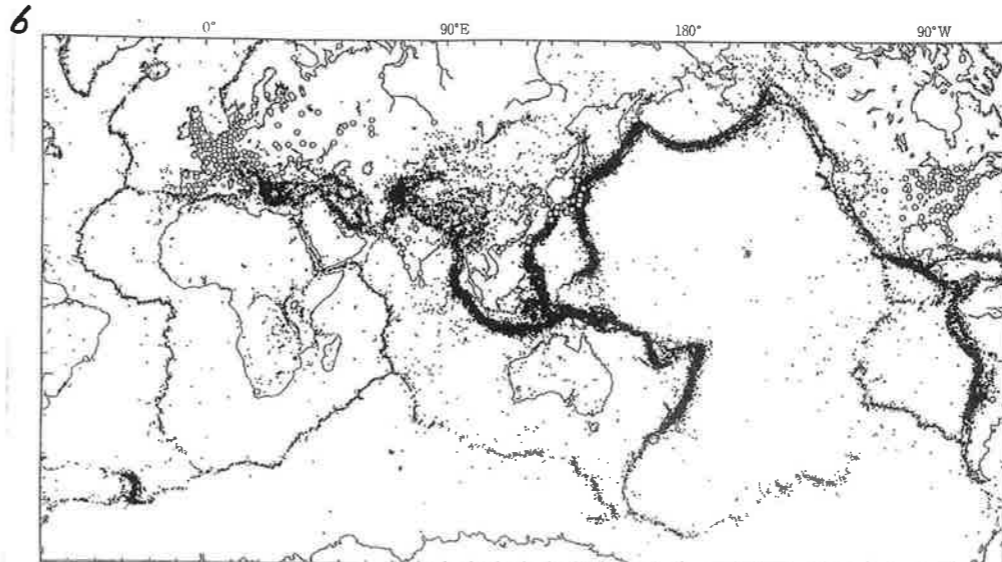
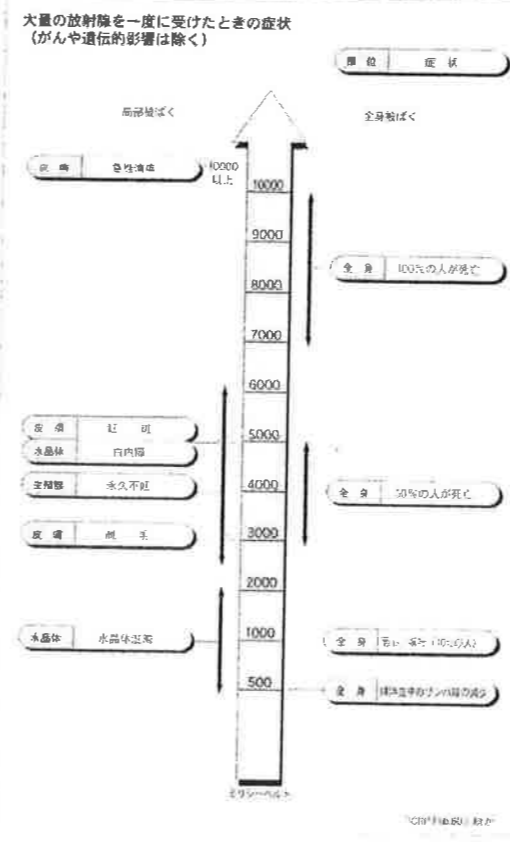


図 世界の地震と原爆の分布。黒点は、1990年1月1日から2011年4月30日までのマグニチュード4.0以上、深さ100km以下の地震17万4581個の震央を米国地質調査所のPDEデータによってプロットしたもの(データ提供: USGS NEIC、作図: 原田智也) 白丸は、2010年1月現在の世界の原爆を示す(原子力資料情報選編『原子力市民年鑑2010』による)

石橋克彦編 「原爆を終わらせる」より

7



http://www.s-yamaga.jp/kankyo/kankyo-genpatsu-5.htm

10-1 原爆症認定に関する 審査の方針

(別表9)

爆心地からの距離 (メートル)	広島 長崎	
	初期放射線による被曝線量 (センチグレイ)	被曝線量 (センチグレイ)
15,010	15,010	31,000
150	13,710	28,090
200	12,200	24,760
250	10,700	21,330
300	9,010	18,125
350	7,540	15,136
400	6,200	12,572
450	5,072	10,179
500	4,104	8,181
550	3,276	6,536
600	2,568	5,192
650	2,058	4,124
700	1,631	3,238
750	1,293	2,551
800	1,028	2,022
850	817	1,608
900	654	1,267
950	519	1,003
1,000	416	797
1,050	332	634
1,100	267	506
1,150	215	401
1,200	173	322
1,250	139	260
1,300	113	208
1,350	92	169
1,400	74	136
1,450	61	111
1,500	50	90
1,550	40	73
1,600	33	60
1,650	27	49
1,700	22	40
1,750	18	33
1,800	15	27
1,850	12	22
1,900	10	19
1,950	9	15
2,000	7	13
2,100	5	9
2,200	3	6
2,300	2	4
2,400	2	3
2,500	1	2

注：ただし、被曝時に遮蔽があった場合の初期放射線による被曝線量は、別表9に定める値に被曝状況によって0.5~1を乗じて得た値とする。

10-2

(別表10) 同上

爆発後の経過時間ごとの 残留放射線量 (センチグレイ)	広島 爆心地からの距離 (メートル)							
	0	100	200	300	400	500	600	700
1~8時間後	26	20	15	10	6	3	2	1
8~16	18	14	11	7	4	2	1	0
16~24	10	8	6	4	2	1	1	0
24~32	7	6	4	3	2	1	0	0
32~40	5	4	3	2	1	1	0	0
40~48	4	3	2	1	1	0	0	0
48~56	2	2	1	1	1	0	0	0
56~64	2	1	1	1	0	0	0	0
64~72	1	1	1	1	0	0	0	0

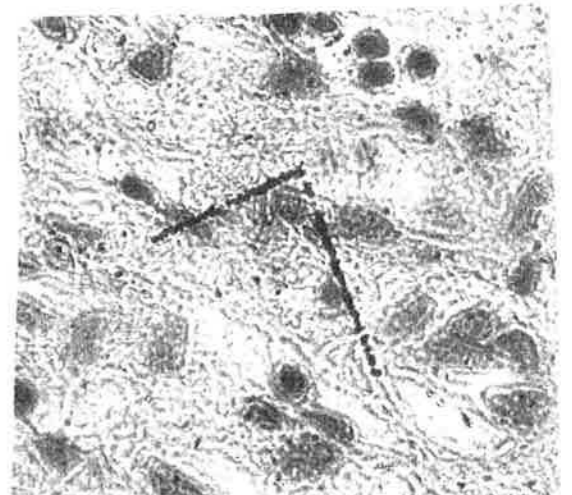
9 日本政府がスガる 「ICRP基準」 まったく信用できない

世界初衝撃画像！ 放射線が細胞にダメージを与えてがんを作る

トロシマ、ナガサキ 内部被曝者たち 下痢や嘔吐

終わりのない苦痛

本人ががんを患うまでには、放射線が細胞にダメージを与えてがんを作る。放射線が細胞にダメージを与えてがんを作る。放射線が細胞にダメージを与えてがんを作る。



世界で初めて撮影された内部被曝 細胞に残ったプルトニウムの爪痕

放射線が細胞にダメージを与えてがんを作る。放射線が細胞にダメージを与えてがんを作る。放射線が細胞にダメージを与えてがんを作る。

8 α線を止める β線を止める γ線を止める 中性子線を止める

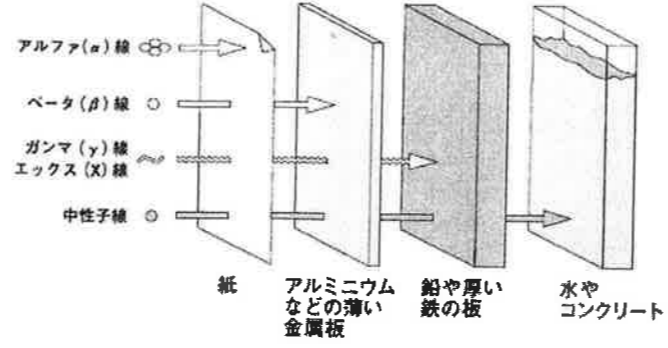


図4-12 放射線の透過力原子力AtoZ http://www.enecho.meti.go.jp/enshi-a7/index.html

週間文 2011. 5/26号

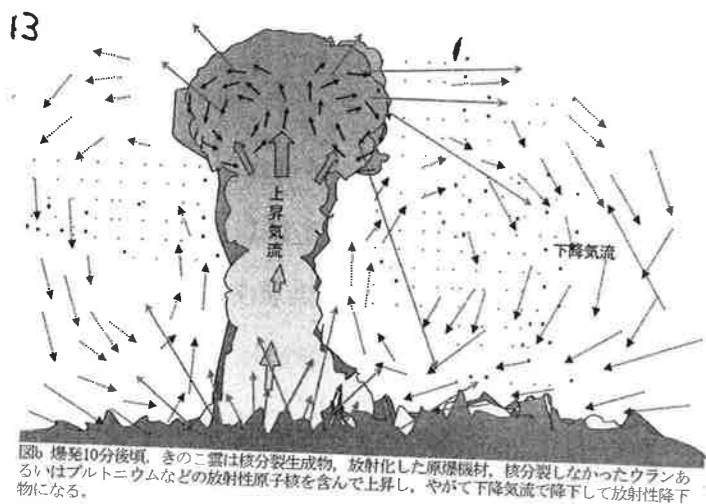
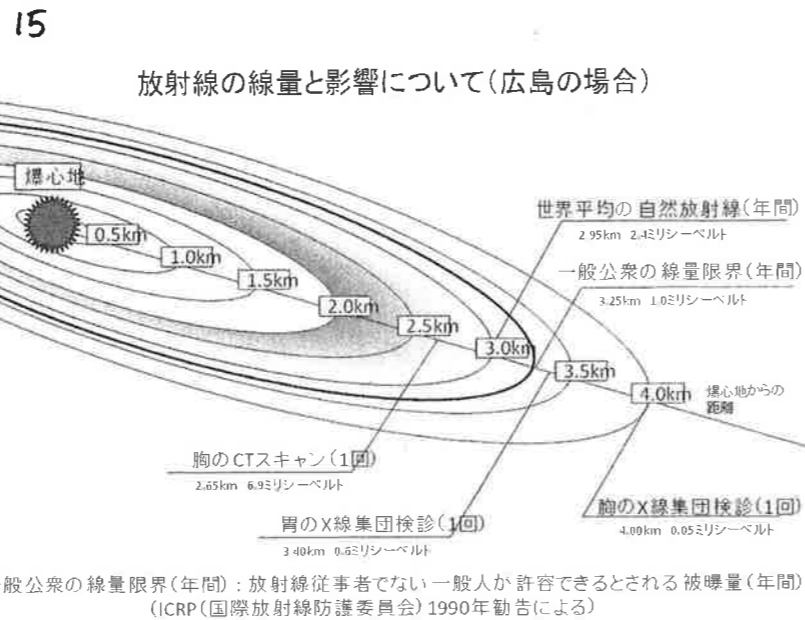


図13 爆発10分後頃、きのこ雲は核分裂生成物、放射化した原爆核材、核分裂しなかったウランあるいはプルトニウムなどの放射性原子核を含んで上昇し、やがて下降気流で降下して放射性降下物になる。



また、初期放射線の他に、「残留放射線」もありましたが、原爆投下時から放射線量が急速に減少し、短期間でほとんどなくなりました。長崎では爆心地から100m地点での初期放射線量は約300グレイでしたが、原爆投下24時間後には0.01グレイ(3万分の1)まで減少したとされています。この残留放射線があったことを考慮して、原爆投下時には市内にいなかった入市者にも、幅広く被爆者健康手帳が交付されています。

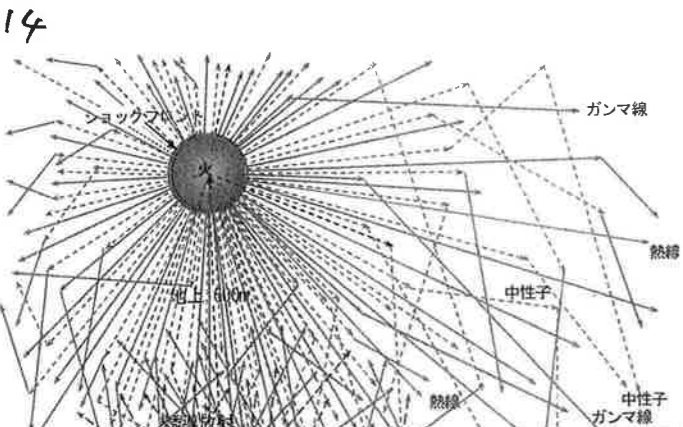
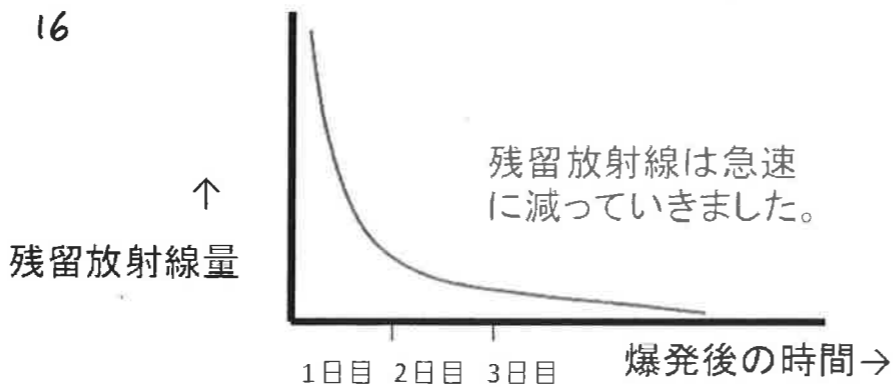


図14 原爆爆発後0.01秒、原爆から放出されたガンマ線が火の玉を生成、吸収されなかったガンマ線(赤い実線)と中性子(緑の点線)は地上に到達し、爆心地付近では中性子吸収による誘導放射線がガンマ線や電子(青い実線)を放出した。

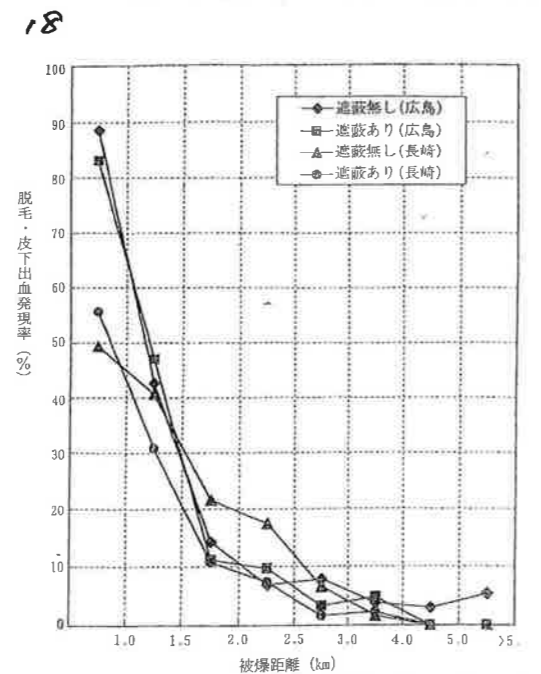


図18 屋外被爆者の脱毛・皮下出血発現率の距離による変化(日米合同調査団の調査結果より田中照巳が作成)

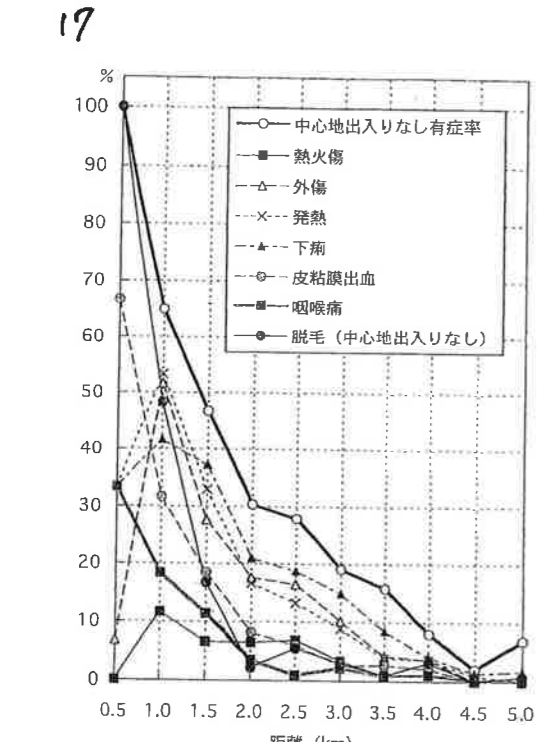
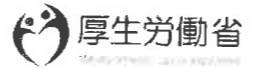
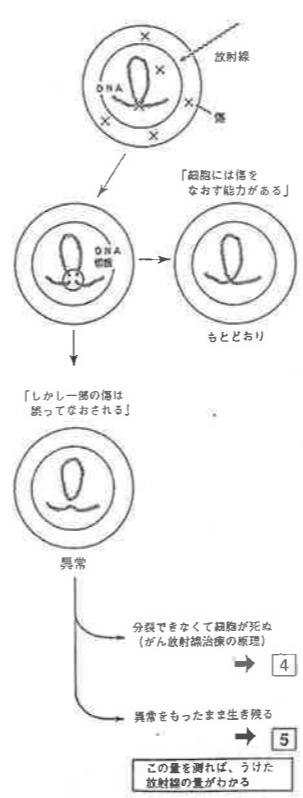


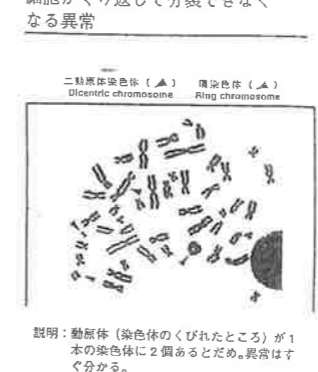
図17 爆心近傍に立ち入らなかった被爆者の急性症状(於保源作による調査、1957年)

19 放射線によって生じる染色体の異常

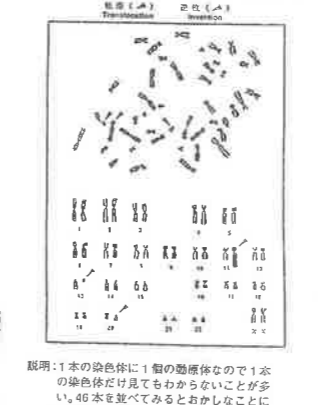
●細胞に放射線が当たると色々な傷ができる。DNAに傷ができるとDNAも壊れることもある。



細胞がくり返して分裂できなくなる異常

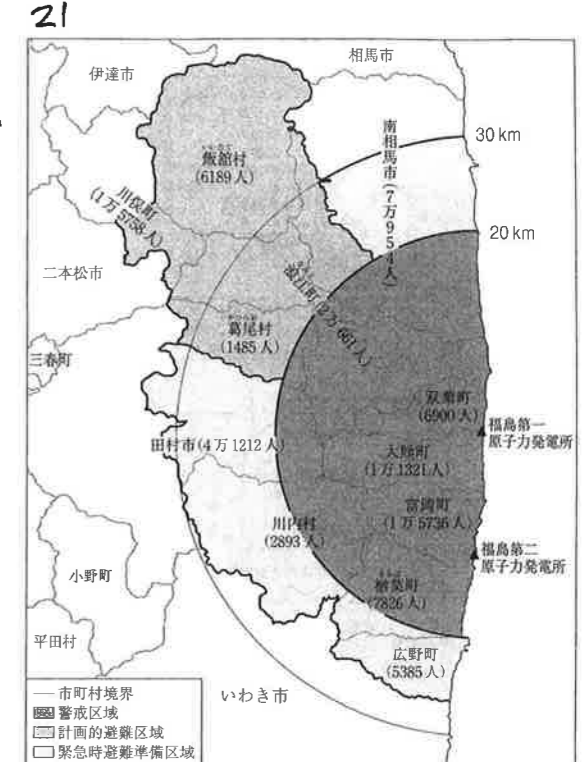


細胞分裂に問題のない異常



放射線の影響を終わらせる

2003.8/5.6



福島第一原子力発電所事故に伴い設定された、警戒区域、計画的避難区域、緊急時避難準備区域(2011年6月初め現在)。経済産業省ホームページ掲載の地図をもとに作成。各市町村の人口は福島県ホームページ「平成22年市町村別人口動態」による

日本国内の原発の2009年末までの主な事故

NO	原発名	期間	回数
1	泊	1991年04月27日 ~ 2009年08月19日	13
2	女川	1983年12月23日 ~ 2009年05月28日	59
3	福島第一	1973年06月25日 ~ 2009年04月06日	138
4	福島第二	1979年08月11日 ~ 2009年10月15日	63
5	柏崎刈羽	1985年05月31日 ~ 2009年01月22日	100
6	東海・東海第二	1966年08月01日 ~ 2009年07月12日	99
7	浜岡	1976年03月26日 ~ 2009年12月01日	97
8	志賀	1991年06月28日 ~ 2009年11月12日	26
9	敦賀	1977年07月12日 ~ 2009年10月06日	73
10	美浜	1977年06月15日 ~ 2009年11月12日	76
11	大飯	1978年08月04日 ~ 2009年08月31日	101
12	高浜	1977年01月24日 ~ 2008年10月03日	80
13	島根	1976年08月27日 ~ 2009年03月26日	40
14	伊方	1978年10月04日 ~ 2008年05月07日	80
15	玄海	1975年06月10日 ~ 2008年06月20日	37
16	川内	1983年12月02日 ~ 2008年04月15日	17
17	ふげん・もんじゅ	1980年07月19日 ~ 2009年10月08日	64
合計			1163

原子力資料情報室編「原子力市民年間2010」より

20 放射線量の評価

DSとは

線量評価方式

- Dosimetry System の略で、原爆被爆者が浴びた放射線の量を推定する手法です。
- 40年間にわたる調査、研究の結果を踏まえ、1986年に日米の最先端の放射線学・物理学の研究者が開発したのがDS86です。
- 2002年に、DS86の問題点を見直し、より精密に放射線の量を推定できるDS02が開発されました。

23 平成23年3月25日 近藤 駿介

福島第一原子力発電所の不測事態シナリオの素描

取扱注意